

第1回山口大学大学院経済学研究科公開シンポジウム

第1回山口大学大学院経済学研究科公開シンポジウム『研究成果と成功事例から読み解く山口を活性化するための企業経営－地域を元気にする経営とは ビジネスは山口を活性化できるか－』を2011年12月3日（土）に山口大学共通教育棟2番教室において13：00から17：00まで開催した。当日は雨も降りしきる中，社会人，学生など，のべ160名の人が参加し，講演者の話に聞き入った。

河野眞治研究科長のあいさつののち，第1部では中森孝文龍谷大学政策学部教授が「ストーリーで見る中小企業の強み－『知恵の経営』の見える化にむけて－」の演目で基調講演を行った。第2部では鍋山祥子経済学部教授が「経営戦略としてのワーク・ライフ・バランス」の演目で，内田恭彦経済学部教授が「地域企業の発展と知的資産」の演目でそれぞれ講演を行った。第3部ではパネリストに澄川宜史澄川酒造場代表取締役，高野誠鮮石川県羽咋市農林水産課課長補佐，中澤さかな

道の駅「萩しーまーと」駅長が，コーディネーターとして鍋山本学教授，コメンテーターとして中森龍谷大学教授，内田本学教授が参加し，パネルディスカッションが行われた。

シンポジウムは4時間という長時間にも関わらず，会場は最後まで講演者の話を聞き逃さないぞという熱気にあふれていた。シンポジウム後行われたアンケートでも好意的な意見が多く，再度このような趣旨のシンポジウムの開催をしてほしいという声も数多く聞かれた。

このシンポジウムの論文は企業経営のみならず，地域づくりに関わる人たちに知的刺激ばかりでなく実用の面でも多くのヒントを与えることになろう。多くの人に読まれることを祈念してやまない。

城下賢吾（シンポジウム実行委員長）